産 科 婦 人 科 学

科目責任者　三　橋　　暁
成　瀬　勝　彦
学年・学期　３学年・３学期

Ⅰ．前　　文

産科は主として妊娠・分娩・産褥という一連の生殖過程，並びにその異常を取り扱うが，同時に出生児（新生児）管理も行い，小児科学と密接な関係を有する。(周産期医学)。一方，婦人科学は特に女性性器疾患の診断・治療を軸として分化・発展してきた学問で，裡に外科的，内科的性格を併せ持っている。同学は女性の性機能の生理と病態を通してその乳幼児期，思春期，性成熟期，更年期，老年期という女性の全生涯に関与する，まことに守備範囲の広い学問である。加えて近年の分子生物学やＭＥの急速な発展とその臨床応用があり，学ぶべき情報量は膨大なものとなっている。限られた時間内にこれらすべてを教授することは困難であるが，下記の学習目標に沿って要領よく講義を進めたい。全てが細分化された現状では数人で全領域を講義することは不可能であり，時に有害である。参考書丸写しによる素人同然の講義は学生ならずと眠くなるであろう。従って，産科婦人科学は名誉教授，特任教授，埼玉医療センターの先生方，さらに非常勤講師の先生方にも参加頂き，その専門分野の講義を担当して戴いた。教科書に載っていないお話にも耳を傾けて戴きたい。

Ⅱ．担当教員

三　橋　　暁　　（産科婦人科学）
成　瀬　勝　彦　　（産科婦人科学）
渡　辺　　博　　（産科婦人科学）
望　月　善　子　　（産科婦人科学）
尾　林　　聡　　（産科婦人科学）
長谷川　清　志　　（産科婦人科学）
柴　田　英　治　　（総合周産期母子医療センター）
鈴　木　達　也　　（リプロダクションセンター）
多　田　和　美　　（産科婦人科学）
河原井　麗　正　　（産科婦人科学）
高　倉　　聡　　（埼玉・産科婦人科）
杉　本　公　平　　（埼玉・リプロダクションセンター）

Ⅲ．一般学習目標

産科婦人科学を産婦人科臨床の基礎，生殖内分泌医学，周産期医学，婦人科腫瘍学，更年期医学，感染症，他の６領域に大別し，少なくともそれぞれの知識のゴールデンスタンダードは十分理解出来るような講義内容とした。また，最新の医療情報，学問上のトピックスについても講義中に各専門家より随時ご紹介戴き，さらにBSLでは実地に体験・学習させたい。

Ⅳ．学修の到達目標

（１）産婦人科臨床の基礎－女性性器の発生・分化・解剖の再確認と産婦人科的診察法の習得。
（２）生殖内分泌学－間脳・下垂体・卵巣系の内分泌機構，及びその異常の理解，さらに最新医療としての assisted reproductive technology（ART）の理解。
（３）周産期医学－妊娠・分娩の正常経過とその異常，妊娠・分娩管理，特に妊娠合併症の管理について習得，さらに正常新生児取り扱いに関しても学習。
（４）婦人科腫瘍学－女性性器（外陰・子宮・卵巣）の良性・悪性腫瘍の分類・診断・治療，発癌機構の理解。

（5）更年期医学－更年期より老年期に至る婦人の生理，病態の把握，またquality of life（QOL）に基づいたhormone replacement therapy（HRT）に代表される治療の必要性の理解。

（6）感染症，他－STDなど婦人科特有の感染症の診断・治療，及びB,C,G,型肝炎ウイルス，成人T細胞白血病ウイルスに代表される周産期母児垂直感染症などの紹介。

V．授業計画及び方法　＊（　）内はアクティブラーニングの番号と種類

（1：反転授業の要素を含む授業（知識習得の要素を教室外で済ませ，知識確認等の要素を教室で行う授業形態。）
2：ディスカッション，ディベート　3：グループワーク　4：実習，フィールドワーク　5：プレゼンテーション
6：その他）

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担　当　者	アクティブラーニング
	11	12	火	4	ガイダンス・総論，女性性器の解剖・性機能	産科婦人科学 三　橋　　暁	1
1		12	火	5	絨毛性疾患－病態・診断・治療	産科婦人科学 三　橋　　暁	1
2		12	火	6	子宮筋腫－病態・診断・治療	産科婦人科学 稲　葉　不知之	1
3		13	水	1	産科へようこそ/妊娠の生理（1）妊娠の成立と維持	産科婦人科学 成　瀬　勝　彦	1
4		13	水	2	妊娠の生理（2）正常妊娠と管理	産科婦人科学 成　瀬　勝　彦	1
5		13	水	3	妊娠の病理（1）合併症妊娠	総合周産期母子 医療センター 柴　田　英　治	1
6		13	水	4	子宮内膜症－病態・診断・治療	埼玉・リプロダクションセンター 杉　本　　公　平	1
7		13	水	5	妊娠の病理（2）異所性妊娠，多胎，切迫流産，切迫早産	総合周産期母子 医療センター 柴　田　英　治	1
8		14	木	1	胎児の病理（1）超音波診断学，胎児発育不全と胎児形態異常	産科婦人科学 多　田　和　美	1
9		14	木	2	妊娠の病理（3）胎盤の異常	総合周産期母子 医療センター 柴　田　英　治	1
10		14	木	3	卵巣腫瘍Ⅱ（性索間質性腫瘍，胚細胞腫瘍，類腫瘍）	産科婦人科学 長谷川　清　志	1
11		14	木	4	外陰・腟－良性・悪性腫瘍の診断・治療	産科婦人科学 長谷川　清　志	1
12		14	木	5	子宮頸癌－疫学・病因・診断・治療	産科婦人科学 三　橋　　暁	1
13		15	金	1	妊娠の病理（4）妊娠高血圧症候群	産科婦人科学 成　瀬　勝　彦	1
14		15	金	2	卵巣腫瘍Ⅰ卵巣腫瘍の分類，上皮性卵巣腫瘍	埼玉・産科婦人科学 高　倉　　聡	1
15		15	金	3	胎児の病理（2）胎児疾患の診断と治療・出生前遺伝学的検査	産科婦人科学 成　瀬　勝　彦	1
16		15	金	4	胎児の生理（2）胎児の生理学的評価	産科婦人科学 多　田　和　美	1
17		15	金	5	産科手術学	産科婦人科学 多　田　和　美	1
18		18	月	4	産婦人科領域の遺伝子診断：周産期・生殖・婦人科腫瘍の臨床遺伝学	産科婦人科学 成　瀬　勝　彦	1
19		18	月	5	周産期救急　母体急変時対応と新生児蘇生法	産科婦人科学 多　田　和　美	1

回数	月	日	曜日	時限	講　義　テ　ー　マ	担当者	アクティブラーニング
20	11	19	火	1	分娩・産褥の生理：「分娩の３要素，正常分娩の経過と分娩管理，産褥の生理」	産科婦人科学 多田和美	1
21		19	火	2	分娩・産褥の病理（１）「陣痛の異常，回旋・胎位の異常，胎盤の異常など」	総合周産期母子医療センター 柴田英治	1
22		19	火	3	分娩・産褥の病理（２）「産科出血・ショック，産褥異常」	産科婦人科学 成瀬勝彦	1
23		19	火	4	子宮体癌－疫学・病因・診断・治療	産科婦人科学 三橋暁	1
24		19	火	5	婦人科領域の手術療法	産科婦人科学 三橋暁	1
25		20	水	1	母子感染症：垂直感染，TORCH，検査と予防・治療	総合周産期母子医療センター 柴田英治	1
26		20	水	4	性の分化と性器形態異常	産科婦人科学 尾林聡	1
27		20	水	5	避妊・女性ヘルスケア	産科婦人科学 尾林聡	1
28		20	水	6	加齢と性機能	産科婦人科学 望月善子	1
29		21	木	1	性器の炎症・感染	産科婦人科学 尾林聡	1
30		21	木	2	胎児の生理（１）胎児発育・胎児付属物	産科婦人科学 渡辺博	1
31		21	木	3	不妊症①	ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝｾﾝﾀｰ 鈴木達也	1
32		21	木	4	不妊症②・不育症	ﾘﾌﾟﾛﾀﾞｸｼｮﾝｾﾝﾀｰ 鈴木達也	1
33		22	金	1	月経異常，内分泌の異常	産科婦人科学 河原井麗正	1

Ⅵ．評価基準（成績評価の方法・基準）

学期末試験

なお定期試験問題内の英語問題は「医学英語 III」の評価として集計される。

Ⅶ．教科書・参考書・ＡＶ資料

参考書：医学書院　標準産婦人科学　第５版　　メディックメディア　病気がみえる vol. 9　婦人科・乳腺外科

メディックメディア　病気がみえる vol. 10　産科

Ⅷ．質問への対応方法

随時受け付ける。担当教員，もしくは科目責任者に連絡すること。

Ⅸ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

＊◎：最も重点を置くDP　　○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	○
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	

Ⅹ. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

講義終了後，各講義担当者に不明点など直接質問する。なお学期末試験結果の解説は行わない。

Ⅺ. 求められる事前学習，事後学習およびそれに必要な時間

シラバス別冊参照。なおシラバス別冊に記載がない場合，シラバス別冊の要点を確認しまとめておくこと。

（所要時間の目安：20分）

Ⅻ. コアカリ記号・番号

シラバス別冊を参照。